



学校だよりNO14

令和3年6月25日

児童数 463人

薫っ子



文責 校長 古川 次男

プールで学習できる幸せ

県内及び市内でも、少しずつ落ち着きを見せている新型コロナウイルスの新規感染者。新しい生活様式が、定着してきている証拠かなと思います。また、冬場とは違い気温が上がってきているため、換気がしやすい環境にもなっています。その一方で、マスクの着用と熱中症対策には頭を悩ませるところもあります。

さて、今年度のプールボランティアの登録者数は、約50名となっています。皆様の協力を得ながら、安全・安心に気を配りながらプールでの学習を進めているところです。今年度、ボランティアの皆様には児童の見守りだけでなく、様々な活動の支援までしていただいています。中には、もしもの時のために、水着を着用して見守りをしてくださる方もいるほどです。本当に助かっています。7月いっぱい、条件が良ければプールでの学習を実施する予定です。引き続き、ご協力をお願いいたします。



【バタ足練習4年生】



【初シャワー1年生】



【クロール練習6年生】

読書習慣と楽しい経験

23日(水)「福島県子ども読書活動推進会議」に参加してきました。席上、高校生の不読率(本を1ヶ月に1冊も読まなかった生徒の割合)の高さが県教委側から報告されました。これは、今に始まったことではなく、以前から課題とされてきました。理由は、「勉学や部活動等の忙しさ」、「スマホなどの方が楽しい」などがあげられています。

一方、「読書量が多い子ほど、学力も高い。」という読書と学力の相関関係は、全国学力・学習状況調査の質問紙などからも分かっています。

「どうすれば、高校生の不読率を下げることができるか?」の問題に対して、ある委員から「0歳児といえども、家庭で読み聞かせを経験している子どもは、絵本を与えられるとそれをめくろうとします。そうでない子は、絵本をふりはらったりします。つまり、小さいときからの読書の習慣化と、絵本を読んでもらえるわくわく感(楽しい経験)が、読書へ向かうためのエネルギーになるのではないかと、話されました。

「読書習慣と楽しい経験」ととても大切なキーワードだなと感じました。本校では、朝の時間を活用し、毎週1回は本の貸し出しをしています。ご家庭でも、子どもたちとともに読書に取り組まれ、楽しい読書経験を増やしてみたいはいかがでしょうか。